

知ることは愛すること

「私は自分の羊を知っており、羊も私を知っている」。

(ヨハネ10. 14)

今日私が福音を読んで黙想したことを皆さんと分かち合いしたいと思います。

まず、今日、私たちはヨハネの最も美しい福音書の一つを聞きましたね。ヨハネは良い羊飼いについて話します。良い羊飼いは自分の羊に命を与えました。このメッセージを聞いてとても感動しました。神は私たちのために命をお与えになります。私たちにとっても素晴らしくてたまらないメッセージだと思います。

私たちは神が全能であると信じています。ですから、神は私たちが私たち自身を知っているよりも私たちを知っています。

皆さんもご存知のようにすべての人間関係は相互信頼に基づいています。この信頼は、私たちがお互いをどれだけ深く知っているかに依存します。実際お互いを知らなければ、お互いを信頼することもできません。私たちがお互いを信頼しなければ、私たちは良い関係を築くことはできません。人間と人間の関係においては、そうですね。

しかし、神と私たちの関係はまったく異なります。私たちの神との関係は、私たちの知識の能力や努力に依存しません。私たちの神との関係は愛にかかっています。この愛は、無条件で不変の愛です。神は私たちを丸ごとすべて愛しておられます。私たちが彼を完全に信頼することはできませんが、彼は私たちを信頼しています。私たちが彼を愛していなくても、彼は私たちを絶えず愛しています。私たちが彼についてほとんど知らなくても、彼は私たちについてすべてを知っています。

では、どうすればこの神の愛を知ることができるでしょうか。十字架に目を向けることで知ることができます。十字架上で、良い羊飼いは羊のために命を捧げました。十字架にかかり、両手を伸ばしたイエスの姿は、「私はあなたにすべてを与えた」ということを意味します。

今日の福音書で、イエス様は、私は私の羊を知っており、羊も私を知っていると云います。そして羊が私の声を聞いているとも言います。私も羊の声を知ってて彼らは私に従います。と

今日の福音書を聞くことによって、私たちは3つのことを一緒に考えることができます。

最初は、私たちの弱さや欠点にもかかわらず、神が私たちを信頼し、私たちを愛しておられることを私たちに知らせ、感じさせることです。

二つ目は、神は自分の命を捧げましたが、今でも毎日命を捧げています。特に私たちが後ミサを祝うとき、私たちが他人を助ける時彼の命を受け取ります。毎日この祝福に感謝しましょう。

最後に彼は常に私たちの声に耳を傾けます：私たちの要求、私たちの成長、私たちの請願などです。私たちも彼の声を聞き、彼の愛のやり方に従うことができるかどうか自問してみましょう。